

## マイナンバーの課題と対応策

2022年10月27日

フューチャー株式会社 金丸 恭文

### ○マイナンバーとマイナンバーカード

- ・ マイナンバーとマイナンバーカードは別物。個人に付番されるマイナンバーはデジタルガバメント推進の重要要素であり、マイナンバーカードはあくまで副産物と捉える方がよい。
- ・ マイナンバーカードを申請しても、健康保険証としての利用以外まだまだ有用なユースケースを生み出せていないため、マイナンバーカードを持つ意義をだせず、財布の中のポジションを獲得するに至っていない。
- ・ マイナンバーカードにこだわることなく、スマホ搭載の検討をお願いしていたところ、それは進めていると聞いているが、当面はAndroidへの搭載のみとのこと。日本人の6割以上がiOSを利用しているという状況の中、その人たちの利便性も上げるために国としても対応が必要である。iOS対応には前政権から長い期間を要している一方他のデジタル活用先進国ではiOS対応できている点から、Apple社の対応に問題があるのか、日本政府が提示している要求仕様について問題があるのか、という点については改めて問題の所在を明らかにして解決に向けた軌道修正はすべきである。

### ○マイナンバーカードのお墨付きは国ではないのか？

- ・ 例えば東京都であれば「〇〇区長」など、基礎自治体の首長が発行主体となっている。Government of Japanや日本国という言葉はない。カードを配布する事務は基礎自治体に委託しているものの、国が発行主体となるべきではないか。
- ・ また、名前の表記は漢字のみ、生年月日の表記は元号記載のみで、海外では通用しない。検討中の状況であるとは聞いているが、海外での提示も可能になるよう、西暦、ローマ字等を併記すべき。

### ○公的個人認証の更新

- ・ 現行制度では公的個人認証の更新のため本人が市区町村にマイナンバーカードを持って手続きする必要がある。公的個人認証の更新手続きをオンラインでできるよう、早急に対応する必要があるのではないか。さもないと、健康保険証として利用する際などにトラブルが多発する恐れがあると思われる。
- ・ 公的個人認証の更新タイミングを発行時にカードに印字して交付したほうがよい。現行の運用は、カードを受け取った本人が手書き対応することになっているが、書いていない人が多い。書いていても使っているうちに消えてしまっている人も多い。

## ○国民にやさしいマイナンバーカードへ

- ・ 公的個人認証においては、4種類（署名用、利用者証明用、券面事項入力補助用、住民基本台帳用）のパスワードを設定する必要があるが、お年寄りにパスワードを適切に管理してもらうのは困難。顔認証などパスワードに依存しない認証の仕組みを導入すべき。
- ・ また、サービス内容によっては認証強度として必ずしも公的個人認証を利用する必要のないサービスもあるという議論もなされていたと思うので、結論を出して、早めに運用を始めるべき。
- ・ マイナンバーカードの交付枚数に比してマイナンバーカード交付にかかる費用として毎年かなりの額が計上されている。令和2年度の予算も、単純に数字だけ見ると1枚あたり1万円超となっており、交付コストを透明化・最小化すべき。

## ○情報提供ネットワークシステムと中間サーバ

- ・ 中間サーバには情報提供を行うための情報を格納する必要があり、各自治体個別のシステムに格納されている正の情報が追加・更新されるたびに、それに合わせて中間サーバ側の情報を更新する必要がある。機関間で連携する情報を追加変更するたび、それに対応するため各自治体のベンダーや中間サーバに改修費用等が都度発生しており、時間とコストがかかっている点を最小化すべき。
- ・ そもそも自治体のシステムも導入ベンダーごとに機能や構造がバラバラとなっており高コスト構造であるところ、そこは標準化を進めていただいている。まずは標準化の整備・運用が実施されているかのチェックはしっかり行うべき。それが実現できれば、現在の自治体システムと中間サーバの二階建ての構造は不要となる。
- ・ また、現在の情報提供ネットワークシステムと中間サーバでは、民間企業が扱うデータ量と比べてもそれほど大量でもないトランザクションをリアルタイムで扱えるスケーラビリティはなく、上記の通り、新たなデータ種を追加するだけで、膨大な時間とコストがかかる。10万円給付でのデジタル敗戦の二の舞を避け、国民の期待に応えるため、今がまさに将来のあるべき姿を見越してシステムアーキテクチャを見直すいい機会だと捉え、既存のシステムや過去の経緯に捕らわれることなく、データの発生から、データ通信、保存、利用の全プロセス、アーキテクチャ、採用技術を総点検し、来るべき利用拡大の時に備えて改善に邁進すべき。